

## ◇記念講演会 ―「横の会」を語る―

【日時】8月3日(土) 午後1時～午後3時  
 【講師】畠中光享、箱崎睦昌、大野俊明、青山巨幹、仲山計介、八木幾郎 ほか(予定)  
 【会場】新津美術館 1階 市民ギャラリー  
 ●聴講無料(ただし観覧券が必要) ●要事前申込み(先着100名)  
 【申込み方法】参加者の住所、氏名、電話番号、参加人数(4名様まで可)をお伝えのうえ、新潟市新津美術館まで電話かFAXでお申込みください。  
 電話:0250-25-1300 FAX:0250-25-1303  
 7月7日(日)より受付開始

## ◇横の会作家による写生指導会

横の会作家が、直接写生指導を行います。  
 【日時】9月15日(日) 午前10時30分～午後3時(昼食は各自ご用意ください)  
 【講師】中島千波 ほか(予定)  
 【会場】新津美術館 1階 市民ギャラリー  
 【参加費】1人500円  
 【持ち物】スケッチブック・鉛筆(2B以上)  
 ●要事前申込み(定員30名、応募多数の場合は抽選)  
 【申込み方法】参加者の住所、氏名、電話番号、年齢、参加希望人数(2名様まで可)をご記入のうえ、「往復はがき」にて新潟市新津美術館までお申込みください。  
 〒956-0846 新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1 新潟市新津美術館「横の会写生会」係  
 申込締切日:8月31日必着

## 美術講座 【時間】午後1時30分～3時 【会場】新津美術館 1階 レクチャールーム ●申込み不要、参加無料(直接会場へお越しください)

### 日本画グループ「横の会」 8月31日(土)

「横の会」とはどのような日本画の団体であったか、参加していた作家たちを紹介します。【講師】新津美術館館長 横山秀樹

## ◇「行形亭」で横の会作家と語る会

明治時代、岡倉天心や横山大観など多くの文人たちが訪れた新潟市の日本料亭「行形亭」(登録有形文化財)を会場に、横の会作家が自らの作品や日本画についてお話をします。  
 料亭の日本料理を楽しみ、美しい庭園を眺めながら、脈々と受け継がれる日本伝統の美をご体感ください。

【日時】8月4日(日) 正午～午後2時30分(受付:午前11時30分)

【講師】中島千波、箱崎睦昌、大野俊明、青山巨幹、仲山計介 ほか

【会場】日本料理「行形亭」  
 (新潟市中央区西大畑町573番地  
 電話:025-223-1188)

【参加費】5,000円(松花堂弁当付・税込み)

【定員】先着35名

●要事前申込み

【申込み方法】参加者の住所、氏名、電話番号、参加人数をお伝えのうえ、新潟市新津美術館までお電話でお申込みください。

電話:0250-25-1300

7月7日(日)より受付開始、7月31日(水)

申込み締切

※先着順のため定員に達し次第、受付を終了します。



### 20年後の「横の会」の作家たち 9月7日(土)

「横の会」が解散してから20年たった今、展覧会の出品作家の現在について紹介します。【講師】新津美術館 主査 小熊千佳子

## 新津美術館《移動美術館》 初開催

9月10日(火)-9月23日(月)

新津美術館の所蔵作品を江南区で展示します。

出品作家:笹岡一、秋山庄太郎、下村良之介 ほか

会場:新潟市江南区郷土資料館 1F展示室(江南区文化会館内)

(新潟市江南区茅野山3丁目1-1 4、TEL025-383-1001)

入場無料 休館:金曜日

開館時間:午前10時～午後7時(日祝は午後5時まで)

## 新津美術館ミュージアムコンサート 唐津健チェロコンサート

8/31(土) 19時開演 会場:新津美術館アトリウム 料金:2,000円

演奏:チェロ 唐津健 ピアノ 鷲宮美幸 先着80名(8月4日より申込受付開始)

## 新津美術館シーズン&アート第30章「芥川龍之介」10/19(土)予定

芥川龍之介の文学の朗読・解説と音楽の公演 会場:燕喜館 料金:1,000円 先着80名

## 新津美術館の次回展覧会 「みんな大好き!ノントン展」11/9-12/25

ボランティアによる 大人のための読み聞かせ 10月開催予定

### ○新潟市美術館展覧会

「山口展」 7月27日-9月29日

TEL025-223-1622

### □NIIGATA アートリンク 2013

「古今東西アートの旅」

7月2日(火)～10月14日(月)

期間中、新潟県立近代美術館・新潟県立万代島美術館・新潟市美術館及び当館の4館で対象展覧会をご覧いただき、各館備え付けのスタンプを集めると素敵なプレゼントを進呈。

### ◆各種サービス

あいてマンデ～

8月12日(月)、9月30日(月)

会期中月1回は月曜閉館します。

託児サービス

【毎月第2・4の木曜・土曜 午前10時～正午】

午後6ヵ月～未就学のお子様をお預かりします。専門スタッフが対応します。

利用無料

利用日の3日前までに、新津美術館へ電話:

0250-25-1300でお申込みください。

こどもタイム

【毎月第1・3の木曜・日曜 午前10時～午後1時】

会場に音楽が流れ、会話を楽しみながらご鑑賞できます。(この時間帯は周りのお客様のご理解をお願いします。)

### 交通のご案内

【徒歩・タクシー】

○JR古津駅から徒歩約25分

○JR新津駅からタクシーで約15分/JR矢代田駅からタクシーで約5分

【車】

○新潟駅より約20km、約40分

新潟方面から国道49号経由、国道403号線を三条・小須戸方面に進み、「県立植物園入口」交差点で左折、道なり約3分

○磐越自動車道では、福島・会津若松方面から「新津IC」より約20分

または新潟方面から「新津西スマートIC」より約15分(新津西スマートICは福島方面の出入りはできません。)

【バス】

○新潟駅東口から

秋葉区バス<新津駅西口行き>に乗車23分、「美術館・植物園前」下車、徒歩すぐ。または新潟交通バス<矢代田経由白根・湯東行>に乗車12分、「新津美術館入口」下車、徒歩5分。

○矢代田駅から

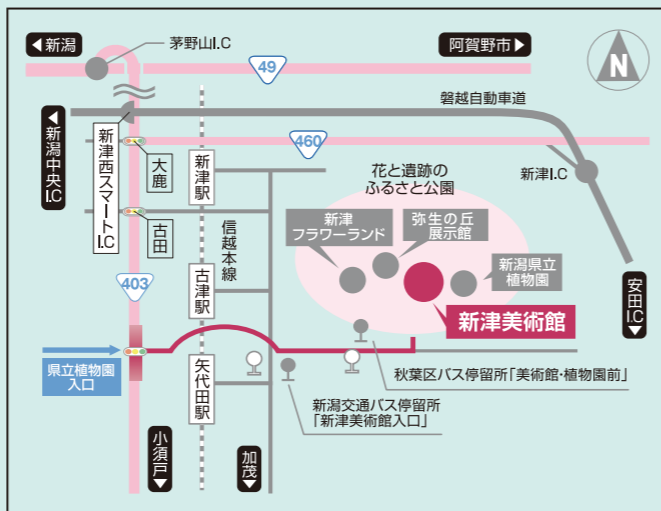
秋葉区バス<新津駅東口行き>に乗車7分、「美術館・植物園前」下車、徒歩すぐ。または新潟交通バス<新津駅行き>乗車3分、「新津美術館入口」で下車、徒歩5分。

### バス時刻表

新潟交通バスは時刻が変更になる場合があります。

\*美術館は、17:00閉館(観覧券販売は16:30まで)です。

新津駅から	秋葉区バス	新潟交通バス	新潟交通バス	秋葉区バス	秋葉区バス	新潟交通バス
	新津駅西口行	白根・湯東行	白根・湯東行	新津駅西口行	新津駅西口行	新津駅西口行
新津駅東口発	9:25	11:25	12:35	13:10	16:20	16:35
新津美術館入口	↓	11:37	12:47	↓	↓	16:47*
美術館・植物園前	9:49	↓	↓	13:34	16:44*	↓
矢代田駅前	9:56	11:45	12:55	13:41	16:51	16:55



矢代田駅前から	新潟交通バス	秋葉区バス	新潟交通バス	新潟交通バス	秋葉区バス	新潟交通バス
	新津駅行	新津駅東口行	新津駅行	新津駅行	新津駅東口行	新津駅行
矢代田駅前	9:11	11:49	12:13	13:25	15:34	16:31
美術館・植物園前	↓	11:56	↓	↓	15:41	↓
新津美術館入口	9:14	↓	12:16	13:28	↓	16:34*
新津駅(東口)着	9:31	12:20	12:33	13:45	16:05	16:51

# 日本画の現在

## 20年後の

# 横の会 展

林 功 佐々木裕久 渡辺信喜 米谷清和 八木幾朗 林潤一 畠中光享 箱崎睦昌 仲山計介 中野嘉之 中島千波 大野俊明 伊藤彬 青山巨幹

# 2013年 8月3日[土] — 10月14日[月]

【休館日】月曜日(ただし8月12日、9月16・23・30日、10月14日は開館) ※9月17・24日は休館

【開館時間】午前10時～午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)

【観覧料】前売券 一般 600円 大学・高校生 400円

当日券 一般 800円 大学・高校生 600円 中学生以下無料

○有料20名以上の団体、S.Lばんえつクーポン持参の方は20%引(割引の併用はできません)

○障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料(手帳をご提示ください)

◇前売券販売場所(販売期間8月2日まで)

新潟市新津美術館、新潟市美術館、NIC新潟日報販売店、インフォメーションセンターえん(メディアシップ1F)、新潟県立近代美術館・新潟県立万代島美術館・新潟県立自然科学館の各館ミュージアムショップ、新潟市勤労者福祉サービスセンター、新潟市職員生活協同組合

主催/新潟市新津美術館 共催/新潟日報社 後援/朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新潟、エフエム角田山ほかほかラジオ

# 日本画の現在 20年後の「横の会」

所属団体や師弟関係という縦のつながりを超えて、横の連携を取り合うことにより新しい日本画を生み出そうと活動した日本画グループ「横の会」。結成当時のメンバーは当時30代から40代前半までの新進気鋭の日本画家で、日展の竹内浩一、堀泰明、米谷清和、渡辺信喜、院展の中島千波、林功、創画会の伊藤彬、大野俊明、佐々木裕久、中野嘉之、仲山計介、林潤一、平松礼二、村田茂樹、無所属の青山亘幹、齊藤隆、佐藤良介、箱崎睦昌、畠中光享の19名でした。途中、佐藤良介が退会し、八田哲、八木幾朗が加わり20名になりました。

「横の会」の特徴はその作品の大きさで、団体展のような規格は取り除かれ、作家自身が描きたい作品を描き発表することのできる自由な場でした。1984年に第1回展を開催し、10年を一区切りとして1993年に解散しましたが、彼らの活動は日本画壇に大きな足跡を残し、解散後もメンバーの一部は東京・京都で団体展を開催するなど躍進を続けています。そして、当時若手の日本画新世代と言われた画家たちも、現在は日本画壇を代表しリードする画家となり、後進を育成する側となりました。

解散から20年目にあたる2013年、かつての「横の会」メンバー12名が集まり、各々が壁面10mのなかで新作・近作を発表することにより、作家たちが目指してきた日本画のあり方、その後に展開してきた姿勢や20年間の成果をご紹介します。

## 「横の会」グループ結成趣旨（第1回展カタログより）

現代日本画の制作にたずさわる私達は、お互いの所属団体や立場を超えて、研究グループ「横の会」を結成いたしました。私達に共通するものは、自分達のより良い発表の場を持ちたいということと、現代日本画のおかれている状況、自分の仕事の反省と危機意識です。考え方や立場は少しずつ違いますが、お互いに認め、刺激しあって、意欲的に仕事をしていきたいと考えます。グループ結成の意味は、お互いの今後の制作活動、作品発表をとおして、明確にしていかなければと思います。初志を忘れず、良いグループ展になるよう努力いたします。

横の会一同



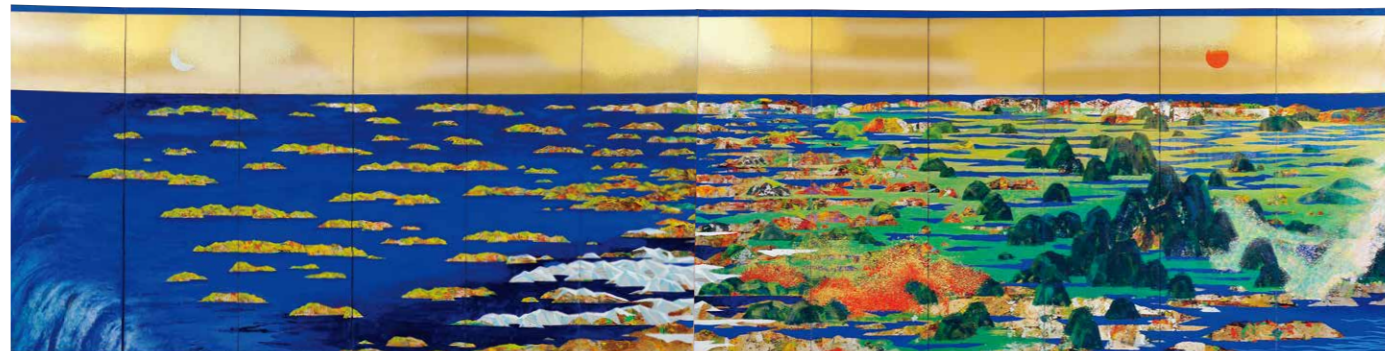
箱崎睦昌《佐渡》2013年



中野嘉之《幼鹿図》(左) 2011年



渡辺信喜《初夏》2011年



仲山計介《HATERU-MA》2013年



畠中光享《聖地通拝》2012年



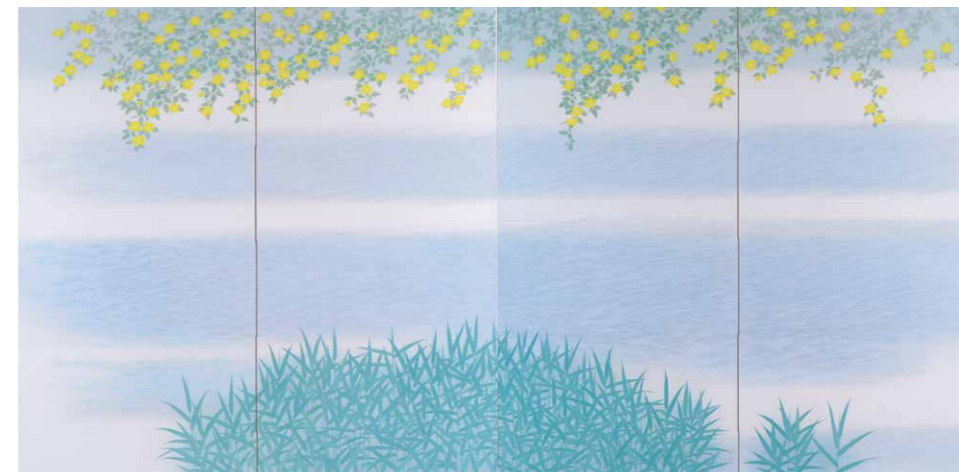
中島千波《existence\*12-9-sei(生)》2012年(東京藝術大学所蔵)



青山亘幹《飛鳥・麗日》2013年



米谷清和《夕間暮れ》2012年



大野俊明《流水図》2012年



八木幾朗《夢の話》2013年



林潤一《秋冬草花》2012年

出品作家：青山亘幹、伊藤彬、大野俊明、中島千波、中野嘉之、仲山計介、箱崎睦昌、畠中光享、林潤一、八木幾朗、米谷清和、渡辺信喜 物故者：佐々木裕久、林功